

「きょうからイクメンジャー」連載コラム2

(次回は 11/18 の予定)



宇治木 敏子

▶ 2

乳幼児へのタッチの話 自身が進んで来た道に入る前に、親の代表的な悩みの一つである「赤誰かが最初は赤ちゃん。

そして、その前は胎児でいた。その頃を少しイメージしてみてください。母親のおなかの中は、暑さ寒さに苦しむことなく安定した体温に守られ、空腹も感じない「安心の場」。そこで成長し、誕生します。環境は一変。

大気の変化、命に関わる空腹感などあらゆるストレスにさらされます。生き延びることができるとは、環境に適応できる生き物だけです。

人間は乳幼児期、一人で生きることができません。赤ちゃんは、自分の存在を認めてもらえるよう、生きるために泣いて、命の根源から強いメッセージを發します。私たちが今、生きているのは、その頃の自分を保護し、支えてくれた人たちがいた証です。

タッチに備えて

泣く意味を理解しよう

「逃げ場のないドライブ中などに子どもが泣きだすと『早く泣きやませたい』と焦る。イライラがママにも伝わる」

ママの外出中、寝ているはずの赤ちゃんが突然、泣きだして困った。こんなヘルプの声がパパから漏れてきます。

心の発達に応じた子育てを理解するには、自分



イラスト・にしもとおさむ

赤ちゃんに泣かれてつらい気持ちは誰もが共感します。ただ、泣く意味を正しく理解していれば、少しは楽になるでしょう。パパたちもそれを心の片隅に置いて、タッチを始めていきましよう。

(NPO法人日本タッチ
コミュニケーション協会
理事長 〓 呉市)